

調査の実施概要

1. 調査の目的

現在、職場におけるDX化やキャリアの自律など、働き方が大きく変化するなかで、「若者」の意識や行動に注目が集まっている。本調査では、若者の仕事やライフスタイルの現状と意識を明らかにし、その結果から、今後、職場がどのように変化していくのか、また、労働組合はどのような活動を進めていくべきなのかを検討することを目的に実施した。

2. 調査の参加組織

電機連合、自治労、基幹労連、J P 労組、N T T 労組、J A M、電力総連、日教組、メディア労連

3. 調査の実施時期

2025年9月～2026年3月

4. 調査対象と回答数

35歳以下の若手組合員を対象とすることとし、産業別組織の場合、1組織あたり1,000件程度の実施を要請した。参加組織から得られた有効回答は累計38,335件となった（35歳超を含む）。参加組織によって有効回答数にばらつきがあるため、35歳以下の回答について1組織あたり1,000件を上限として無作為抽出し、分析用のデータとすることとした。分析対象とした共同調査計は7,755件である。

5. 調査実施に伴う組織と運営方法

本共同調査は、理事組合から選出された企画委員と事務局員により構成された「企画委員会」において、調査の実施方法や調査票設計等の討議を行い、定例理事会で確認を行った。

6. 本調査報告での表記

「・・・」は選択肢、＜・・・＞は2つ以上の選択肢をあわせたものを示している。また、[・・・]は表型の設問における表側の項目などを表記するさいに使用している。

（設問例）

	大いに あてはまる	ある程度 あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
A. リスクを取ってでもチャレンジすることを許容する	●	○	○	○
B. 反対意見も話しやすい	○	●	○	○
C. 困っている時は自然と周りが支援してくれる	○	●	○	○

（記載例）職場の雰囲気について、「大いにあてはまる」と「ある程度あてはまる」をあわせた＜あてはまる＞をみると、[困っている時は自然と周りが支援してくれる]は80.3%に及び・・・